

ベトナム留学生、Mr. Nguyen Duong Duc（ニックネーム：アンディさん）が帰国しました。

ベトナム社会主義共和国、ゲアン省立 Vinh(ビン)医科大学看護学部、講師、Mr. Nguyen Duc Duong、(ニックネーム) アンディさんは、平成 28 年 5 月 9 日～7 月 28 日まで約 3 か月間の佐久大学大学院修士課程での留学を終え、帰国しました。本学では、専門分野の研究に加え、学部生、教員を対象に「ベトナムの看護教育の現状」について講義を行い、参加者は日本とベトナムの看護教育システムの類似を理解しベトナムの看護をより身近に感じる機会となりました。ベトナムでは、まだ免許のための看護国家試験がないこと、ベトナムの学部生は夜勤の実習が続き、翌日、昼休みの時間は教室、実習室、廊下等至るところで睡眠時間を補っている学生たちの写真に、「学生は夜勤が続いて大変だ」と感じると共に親近感を感じた様子でした。ビン医科大学が位置するビン市は緑が豊かで、本学の学生たちは、ベトナムに良い印象を持ちました。

アンディさんは、評価会（7/27）では、3 か月間のがん看護研修・研究で所期の目標であったがんの予防から治療、化学療法、緩和ケア、終末期ケア等について日本の実情から、十分に学ぶことができたと言いました。今後、ベトナムの「がん看護」を継続的に発展させていく重要性に気づいたこと、自身の 8 月からの博士課程での研究のベースづくりに役立ったこと、将来、機会があれば再び日本で勉強したい。そして同僚にも日本で勉強することを進めたい。今後も佐久大学とビン医科大学看護学部との交流が促進されることを希望すると述べました。また、関係者のご支援により週末には日本の伝統文化に触れる機会もありましたと謝意を述べました。

教職員の好意により、生活用備品が提供されアンディさんのアパート暮らしが始まったのですが、日本での慣れない生活は不便であったであろう、という関係者の予測に対し、「ごみ出しの日」を覚える位でさほど不便は感じなかったとのことで、関係者を安堵させました。

